

(事後評価)

先端科学技術を担う女性研究者の育成

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：奈良先端科学技術大学院大学（総括責任者：磯貝 彰）

プロジェクトの概要

現状では割合の少ない女性研究者を支援することによってその増加を図り、多様な人材が活躍する多様な環境を創出すること、家庭生活と研究活動の両立を支援することを目的とし、学長直轄の男女共同参画室の下、①NAIST 型ポジティブアクション（再任制度の充実（育児等の特例）及び研究支援者の戦略的配置）、②けいはんな女性研究者ネットワークの構築、③プラスα保育、④曼陀羅 at ホーム（在宅研究教育支援システム）及び⑤WLB 相談窓口の取組みを行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
S	s	a	a	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

理工系の大学院大学としての特色を生かし、女性研究者のニーズに応える支援体制を整備し、女性研究者の採用比率のみならず、研究業績の向上についても目標を達成しており高く評価できる。さらに、けいはんな学研都市においては、機関・企業を巻き込んだ女性研究者ネットワークを構築した。

・ **目標達成度**：女性研究者の研究成果の向上、女性教員採用比率の増加、けいはんな学研都市における女性研究者ネットワークの構築など全ての目標を達成した点は高く評価できる。

・ **取組の内容**：女性研究者個々のニーズを把握し、きめ細かい取組を迅速に実施した点が評価できる。博士号、修士号取得者を研究支援者としたアカデミックアシスタント制度の

構築、新規採用女性教員全員へのスタートアップ研究費の支給、学内一時託児室の設置等、女性研究者のニーズを踏まえた取組が成果に繋がった。

・**システム改革の成果**：機関執行部や教員の意識改革が進み、機関全体のシステム改革の成果として、女性教員の採用増とともに研究業績の向上も果たされており評価できる。

・**実施体制**：学長直轄に理事・副学長を室長とする男女共同参画室を設置し、全学的な体制で取組を実施しており評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：専任スタッフを配置する実施体制を継続し、また、実施期間中の補助金に相当する予算措置を行い、ほぼ全ての取組を継続しており高く評価できる。さらに、一部の取組については対象者を男性研究者にも拡大し、研究者のワークライフ・バランスの実現に向けた取組としており、取組の発展性が期待できる。